

オープンアクセス？ALA大会で飛び散った火花（Open Access? Some Sparks Fly at ALA）

Library Journal 7/6/2004

<<http://www.libraryjournal.com/article/CA433931?display=breakingNews>>

STM 出版におけるオープンアクセスの傾向と Elsevier に対して失望を隠せない図書館員を扱った重要な記事が *New York Times*¹⁾に掲載された次の日、6月27日にオランダのアメリカ図書館協会年次大会でパネルが開かれ一火花が飛び散った。「全体の議論はダビデとゴリアテの闘い²⁾に変わりつつある」とこの市場の巨人（Goliath）である Elsevier 科学技術部門の最高経営責任者 Arie Jongejan は宣言した。「ウェルカム財団[オープンアクセスの支援者]のような団体は、共存を話題にしていない。」Jongejan は、次は何か「わからない」と認めているにも関わらず、聴衆に対して出版者が研究の組織化と配布に果たしている役割を思い出させた。彼は、オープンアクセスの背後にあるビジネスモデルの特徴である「出版のために支払う（pay to publish）」について警告を発した。彼の指摘は次のとおりである。Public Library of Science (PLoS) が刊行した *PloS Biology* のような人目を引き、豊かな助成を受けた新規参入者があるにもかかわらず、オープンアクセスへの移動は、[論文の]質に影響を与え、「受理論文の偏向」を招き、その運動は財政的に持続可能ではないかもしれないと。

Jongjan は「自由なオープンアクセスは専門協会を（professional societies）破壊する危険を冒す」と警告する IEEE の Anthony Durniak の援護を受けた。Durniak は、PloS の会員資格と資料のより大きな構成要素を提供する IEEE の Electronic Library の購読の違いについて疑問を呈している。PloS の Andy Grass が「正真正銘のオープンアクセス論文はその後の予想される電子利用が無制限である」と応酬した。例えば、そのような雑誌の著作は、「訴訟を起こすコピーショップには関係がない」と述べている。Grass はまた、自己アーカイビング（self-archiving）について論評している。（最近 Elsevier は自社の STM 雑誌へ出版するため論文を投稿した著者が、個人や機関のウェブサイトで研究のため自由に利用することを許可すると発表した。）³⁾このような自己アーカイビングを奨励しているにもかかわらず、Grass はそのようなレポジトリは完全に検索できないし、要するに不十分であると述べている。「出版のために支払う」システムの質が落ちるかどうかにについては、「正確には、そうでないことを実証するための試みを行っているところである」と Grass はいった。

注

1) Burdman, Pamela. A Quiet Revolt Puts Costly Journal on Web. *New York Times*, June 26, 2004.

2)旧約聖書 第一サムエル記 第17章 ダビデはペリシテの巨人ゴリアテを打ち倒した。

3)Elsevier Articles Can Be Posted On Personal/Institutional Sites. *Library Journal*, 6/25/2004

<<http://www.libraryjournal.com/article/CA428250?display=breakingNews>>